

保育の質を問う

目 次

第1章 児童の保護・養育の理念と保育所の立ち位置 …………… 1

第1節 児童福祉における理念の基準をどこに置くか 1

- (1) 児童憲章にみる児童福祉の理念 2
- (2) 児童の権利宣言と児童福祉の理念 5
- (3) 児童の権利に関する条約締結と児童福祉の理念 6

第2節 日本の児童が直面している諸問題とその本質 8

- (1) 子どもの虐待 9
- (2) 子どもの貧困 11
- (3) 不登校問題 13
- (4) いじめ問題 14
- (5) 保護者の子育てに対する無理解 15

第3節 子育てと保育園の立ち位置 17

- (1) 幼児の3人に1人が保育園を利用 17
- (2) 保育園は、「働く保護者を支援」することが第一の目標なのか、「幼児の人間形成を促進する」ことが第一なのか改めて考えてみる必要があるのではないか
17
- (3) 地域の子育て支援センターとして期待される保育園 19
- (4) 保育園は、保護者（父母）の子育て学習の拠点であること 21
- (5) 地域の貧困児童に対する生活支援 22

第2章 保育園を取り巻く現状とその分析 …………… 24

第1節 子ども・子育て新制度の概要 24

- (1) 制度改革の背景 24
- (2) “子育ての社会化” 確立のため改革がスタート 24
- (3) すべての人が利用できる仕組みづくり 25
- (4) 教育・保育施設の種類 25

第2節 幼保連携型認定こども園の役割 27

- (1) 幼保連携型認定こども園の役割は、子どもの心身の発達の助長と、保護者に対する子育ての支援 27

(2) 幼保連携型認定こども園は、法律上の「学校」であり、「児童福祉施設」	28
(3) 幼保連携型認定こども園と他の認定こども園との違い	28
(4) 幼保連携型認定こども園と保育所との違い	29
(5) 幼保連携型認定こども園も保育所も、また幼稚園も教育の中身は同じ	29
(6) 幼保連携型認定こども園と幼稚園との違い	31
(7) 小学校との円滑な接続	32
(8) 0歳から就学前までの乳幼児期の人間教育の確立	33
第3節 社会福祉法人を取り巻く環境	34
(1) 制度改革の流れ	34
(2) 問われる社会福祉法人の存在意義	35
(3) 制度改革の本質	37
第4節 保育園を取り巻く課題	38
(1) 子どもの貧困の問題	38
(2) 子育て環境の変化	39
第3章 これからの保育園経営の方向	42
第1節 日本の社会福祉政策の課題の整理と再考の視点	42
(1) はじめに	42
(2) 日本の現状と課題—「互助」の再生	43
(3) デンマークの社会保障政策の概要	45
(4) 日本の社会福祉政策の推進のための再考の視点	46
(5) 地域包括ケアシステム構築のための提言—「互助」の再生の視点	49
(6) 地域福祉の更なる推進のために—社会福祉協議会との協働	52
第2節 社会福祉法人として	53
(1) 社会変化への対応	53
(2) 地域で継続してミッションを果たしていくために	53
(3) 社会福祉法人の「経営」とは	54
(4) ガバナンスの確立—地域で継続してミッションを果たしていくために	54
(5) 社会福祉法人の経営の質とは	55

(1) 養護の方法	162
(2) 教育の方法	169
第3節 特色ある保育環境を創造する	193
(1) 保育園は児童を預かる「容器」ではない	193
(2) 園児の美的感覚を養う	195
第4節 保育事業と高齢者福祉を総合的に推進する	196
(1) みかり会の実践を通して	196
(2) 高齢者との総合的保育はどのような影響を与えているか	200
第5章 結びにかえて	205
第1節 新しい制度に	205
(1) 新制度の概略—どうなるのか	206
(2) 新制度の特徴 養護（保育）と教育	207
(3) 生きる力の基礎を	210
(4) 新制度の課題	212
第2節 これからの保育園の新たな役割	214
(1) 地域の子育て支援センターとしての役割	214
(2) 大人の教育 親の学習塾として	217
第3節 国や市町村の保育政策に望むこと	218
(1) 母親が働く条件と保育の一体的な政策の推進を	219
(2) 誠意のある保育・教育行政を	221
(3) 人材の育成と確保	222
(4) 変わることはない保育、養育政策を	223

